

脊柱側弯症

脊柱側弯症とは体の中心にある背骨(脊椎)が左右に曲がっている状態を言います。子供の頃に曲がってしまうこともあれば、年齢を経て徐々に曲がってしまうこともあります。今回は子供の側弯症についてお話しします。

原因不明の側弯を特発性側弯症といい、神経や筋の異常によるものを症候性側弯症といいます。日本での発生頻度は人口の 1-2%で女兒に多く、症状の出現が早いほど症状の進行することが多いと言われています。遺伝が関連するものもあるため、ご両親(特にお母さん)や兄弟姉妹が側弯症を指摘されている場合には注意してください。軽度の側弯であれば問題ありませんが、変形が強い場合は見た目だけでなく心臓や肺の機能に影響が出てしまうため、背骨を矯正する装具を装着します。ただし症状が進行して装具での矯正が難しい場合には手術が必要になることもあります。ですから特に思春期(10-15 才)の女兒のいるご家庭では、日頃からお子さんの姿勢に注意してください。

目視で確認できる場合もありますので、ご家族の協力も大切です。目視の場合は真っ直ぐ立った状態で背骨の曲がり具合、肩甲骨の高さを確認します。また、体を前屈した状態で後ろから眺めて背中(肋骨)の形を確認します。どちらの場合も左右差があったら要注意です。もちろん早期の場合は目視で確認することが難しいので専門家の評価が大切です。

学校検診でも側弯症検査がありますので、異常を指摘された場合は速やかに整形外科を受診してください。年齢によっては急速に側弯が進行する場合がありますので、年に数回の検査が必要になることもあります。

また、もし側弯症を指摘されても過度に心配しないでください。自然に良くなる場合もありますし、ほとんどの場合は装具療法で対処可能です。ただし、装具療法が必要な場合はなるべく長時間装具をつけることが必要です。がまんも必要のためご家族は温かく励ましてあげてください。